

わたしのまち

地域版ピックアップ



今回のテーマ

障害者と就労

国の省庁による障害者の雇用率水増しなどの不正が問題化しています。その半面、京都新聞の各地域版の記事からは、障害者が農業や食品製造、伝統産業などさまざまな分野で生き生きと働き、地域社会の担い手となっている現場の姿が伝わってきます。多様な人々が互いに支え合い、やりがいと苦勞をともに分かち合うという社会を築いていくうえで道筋と光明が見えてくるようです。(報道部地域担当部長 秋元太一)

地域社会の担い手に



ジャカード織機を使う利用者。工房には3台の機械が入り、さまざまな製品を織る(京都市北区大將軍川端町・西陣工房)

「ガッちゃん、ガッちゃん」1。3階建てビルの中から、機械の音がリズム良く響いてくる。慣れた手つきで布を織り上げるのは、京都市北区の就労継続支援事業

市民版

西陣織後継者へ着実に歩む

北区

業所「西陣工房」で働く知的障害のある人たち。工房は開所から今年で15年目を迎え、「福祉から地場産業を支える」という目標に向かって着実に歩を進めている。

工房ができたのは2004年9月。西陣織の工程の一つで経糸を整える「整経」を行う家で育ち、京都市内の福祉施設で長く働いていた河合隆施設長(61)が、西陣織と福祉をつなげられないかと考え、立ち上げた。

はじめは知的障害のある3人で組みひもの生産からスタート。07年には修学旅行生や観光客に工房

で働く人が組みひも作りを指導する体験教室を始め、今では年間約700人が工房を訪れる。

中村賢太郎さん(19)は、工房に通い始めて2年目。今年8月から、手織りできるジャカード機を使って作業を始めた。正絹の糸を機械に通し、美しい紋を織り上げていく。「手で織るのは楽しい」と、笑顔を見せる。(9日付市民版「きょうING」欄)

この工房ではさらに良質の物を作り続け、伝統産業の後継者になれるようレベルアップをめざしているという。

《今夏、中央省庁や自治体で障害者雇用を巡る不正の実態が次々と明らかになった。障害者の雇用を担う社会のあり方が問われたが、地域に目を向けると、障害者を積極的に採用する民間企業があり、そこで生き生きと働く人がいる。福知山市で働く障害者の姿、企業の取り組みを追った。



障害者と健常者が同じ職場で油揚げの袋詰め作業をこなす工場(福知山市三和町下川合・京都庵)

町で油揚げや総菜を製造する「京都庵」。常務取締役の梶川尋正さん(58)は「過疎高齢化が進む地域の中小企業にとって、人手確保は会社の存続に直結する。働きたいという思いがある人は、誰でもどんな採用する」と話す。

障害者がある8人の従業員は、一般の従業員と同じ業務をこなす。勤務時間を短くしたり、目を合わすのが苦手な人には目線を合わせずに話すなど、障害特性に応じた配慮することで、しっかりと働いてもらうことができるという。(9日付丹後中丹版「北部クロスアップ」欄)

記事では、公共交通が不十分な中丹地域で会社への交通手段が限られることなど地域固有の困難な課題と背景についても言及しています。取材した記者は「障害者が働く現場を支えているのは、周囲の小さな配慮の積み重ねではないか」と実感を記しました。

丹後中丹

特性に配慮、しっかりと働く

福知山



畑での作業の途中、利用者と一緒に休憩して笑顔を見せる鶴ノ口さん(中央右)＝京田辺市東

《台風21号が迫ってきた今日3日。京田辺市東の就労支援事業所「さんさん山城」が借りている同市東の畑で、利用者の鶴ノ口信男さん(76)が栽培中のナスの茎を支柱に固定した。農業を始めて

山城

農業、笑顔で根気よく指導

京田辺

65年ほど。慣れた手つきで作業を終えると、自然と周囲に仲間が集まる。「みんなと交流できるし、やっぱり楽しい」。手話で談笑が始まった。

会社を退職後、京都聴覚言語障害者福祉協会で働く友人のろう者から、「鶴ノ口さんの力が必要」と口説かれた。「さんさん山城」の開設備が進められていた。2011年の開所と同時に通所を始めた。

(9月15日付山城版)さんさん山城で、耳の不自由な人をはじめ不就業や引きこもりなどさまざまな境遇を経た利用者や職員が、生き生きと働く姿を、3回の連載企画で伝えました。30日付山城版「いまだときやましろ」欄では省庁水増し問題に対する山城地域での批判の声を取り上げるとともに、障害者を雇用することにプラスの側面があることを伝えました。「障害のある人が働きやすい職場は、誰もが働きやすい。多くの企業や団体がそういう認識を持つ社会になってほしい」との就労支援関係者の声を紹介しています。

宝ヶ池大通

Coffee/Restaurant

ドルフ DORF
☎075-722-2367

Foodies Cafe

ニフティー
☎075-722-2370

取材テーマを募集



毎週土曜の「読者に伝えるページ」は、ニュースに対する読者の疑問、質問を基に取材する新企画です。

住所、氏名、
テーマを報道課
電子メールは
ファックスは